令和７年度第１回山鹿市子ども・子育て会議　会議録（要点筆記）

会議日程

令和７年８月４日（月）午後２時００分開会

〇委嘱状交付式

　１　開式

　２　委嘱状交付

　３　閉式

〇子ども・子育て会議

１　開会

２　「山鹿市子ども憲章」唱和

３　福祉部長挨拶

４　副会長選任

５　会長あいさつ

６　議事

　　１）子ども・子育て会議について（設置目的・役割について）

　　２）山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第２期）事業取組実績（R6年度・５年間）について

７　その他

８　閉会

出席委員（１２名）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 伊藤良高 委員 | 緒方淳一 委員 | 山田原野 委員 | 栗原昭浩 委員 |
| 川端波 委員 | 坂口美咲 委員 | 廣瀬卓三 委員 | 古江律代 委員 |
| 村田千夏 委員 | 大溝真未 委員 | 納富久 委員 | 百田止水 委員 |

欠席委員（５名）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 迎田浩二 委員 | 渡辺研一 委員 | 田代桂一 委員 | 福島誠四郎 委員 |
| 工孝幸 委員 |  |  |  |

事務局職員出席者

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 徳丸和孝 福祉部長 | 原幸徳　福祉部政策審議員 |  |
| 福祉部子ども課 |  |  |
| 原口雄二 課長 | 猿渡裕一 課長補佐 | 原仁美 課長補佐兼係長 |
| 原由美 主幹 | 前田智康 係長 | 金光賢信 係長 |
| 野見山和子　専門員 | 松原由紀子 主事 |  |

説明のため出席した者

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 福祉部福祉課 | 福祉部健康増進課 | 建設部建設課 |
| 大嶋明美 主任 | 富田靖明 係長 | － |
| 建設部都市整備課 | 教育部学校教育課 | 教育部生涯学習・スポーツ課 |
| 三浦勇人 主任主事 | 宮野美香  学校教育指導室審議員 | 菊川知美 課長補佐 |
| 市民医療センター経営管理課 |  |  |
| 平野智和 総務係長 |  |  |

午後２時００分　開会

----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------【委嘱状交付式】

１　開式

事務局進行による開式宣言。

２　委嘱状交付

事務局進行により新たに就任した５名の委員を紹介し、代表して緒方淳一委員へ福祉部長より委嘱状を交付。

３　閉式

事務局進行による閉式宣言。

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【子ども・子育て会議】

○事務局進行

委員１７名に対し出席委員１２名であるため条例第５条第２項に規定された議事定数の２分の１以上を満たしていることを宣言。

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

１　開会

事務局進行による開会宣言。

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

２　「山鹿市子ども憲章」唱和

　全員起立し「山鹿市子ども憲章」唱和。

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

３　福祉部長挨拶

合併後、高齢化・人口減少・少子化が加速しており、歯止めをかけるためにも各部の垣根を超えた施策の展開が必要であると考えており、皆様よりご意見ご提言をいただき、よりよい子育て支援施策の展開に繋げたい旨の挨拶。

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

４　副会長選任

　事務局より副会長への立候補を募り、委員より事務局一任との発言あり。

事務局案にて迎田委員に副会長を提案し、委員より了承を得る（迎田委員は事前了承）。

----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

５　会長挨拶

こども基本法にあるこどもまんなかの精神同様、山鹿市子ども憲章は大人の子どもに対する基本的な精神を述べており大切な指針である。こども計画はこども若者の育ちを社会全体で考える計画であり本年が実施1年目である。本日はこれまでの子ども・子育て支援事業計画を振り返り今後に繋げていくため、委員の皆様からの現場で抱えている問題など忌憚ないご意見をお願いしたい旨の挨拶。

○事務局進行

　時間の都合上、委員及び事務局紹介を割愛し名簿及び席次表にて確認をお願いする旨の説明。

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

６　議事

○事務局進行

　条例第５条第１項に基づき、議事の進行を会長へ依頼。

○議長（会長）

事務局に対し、議事１の説明を要求。

○事務局

議事1：子ども・子育て会議等について、主に資料３を用いて説明。参考資料：資料5・6

・子ども・子育て会議の役割について　　・子ども・子育て支援事業計画について

　・こども計画について

〇議長（会長）

山鹿市子ども憲章のような、子ども若者自身がどう考えてどう生きていきたいかという子どもの権利宣言を作ってもいいと思う旨の意見。

事務局に対し、議事２の説明を要求。

〇事務局

子ども・子育て支援事業計画の内容について説明。こども計画の内容について説明。

資料４事業取組表と別紙「R2年度～R6年度の総評価」の内容について説明。

〇議長（会長）

基本理念の「子どもの笑顔がかがやき　安心して子育てできるまち山鹿」に近づいているか。

〇子ども課

　取組事業として５割はできたとの評価であったため、今後しっかり取り組んでいきたい。

〇議長（会長）

改善に向かっているのが資料でも分かる。施策を不足と考える方の声も継続して受け止められたい。

〇委員

　幼稚園利用者が減り、同じ小学校に行く子がいないという点に対する支援は。

〇子ども課

　保育園も同様の状況だが、市としては山鹿市全体を見て、保護者の希望を受け調整するため、今のところその支援はない。

〇委員（小学校校長会代表）

小学校では入学前から保護者への説明や体験入学を行い入学前に保護者の繋がりを作り、学びプログラムを実施している。入学後も丁寧に具体的な取組みを行っている。

〇委員（法人保育園代表）

認定こども園がない校区の保育園が認定こども園に変わると、１号認定と２号認定の園児が混在する施設が増えるので、同じ小学校に行く卒園児も増えていく。また山鹿市全体では、５歳児から小学１年生までを架け橋プログラムとして保育園と小学校の交流をしている。

〇委員

　ファミリーサポート事業で依頼会員数も減少しているとあるが、その理由は。

〇子ども課

　ある調査結果で保護者がどこに相談しているかの問いに、行政等の相談窓口を利用しながらショートステイやトワイライト事業などを使っている方が多く、ファミサポの利用は少ない。

〇委員

　ファミリーサポート事業は、皆さんご存じなのか。

〇子ども課

　ファミサポセンターはもちろん、子育て支援センターも家庭訪問時に周知している。必要と思われる方はいるが、うまくマッチングできなかったり、他の事業を利用されたりで利用人数は減っている。

〇委員

　インクルーシブ保育「コーディネーター会議参加率」の低下をどう捉えているか。

〇議長（会長）

　先の話に戻るが、ファミサポは臨機応変に対応いただき、独自性を生かしていただきたい。

〇委員（社会福祉協議会代表）

　依頼会員の減少要因の一つは中学生になると自動退会になり、出生率が減っている分依頼会員が減っている。また相談時や実際のマッチング前後にお断りされる依頼会員が増えている。

〇議長（会長）

　先ほどご質問があったコーディネーター会議についてはどうですか。

〇子ども課

　参加率は徐々に下がっている。どうしたら興味を持って話し合いの場を設けることができるか、参加者を増やせるように取組みを行っていきたい。

〇委員（小学校校長会代表）

　学校現場はこの研修を計画的にきちんとしたプログラムで行っており、日々学びなおしが必要な分野だと思う。少しでも参加率が上がることが山鹿市全体としてもありがたい。

〇委員（法人こども園代表）

　私も令和２・３年度と参加した。園に保育士の余裕が無く、派遣できないかと思う。

〇委員（法人保育園代表）

　コーディネーター会議が始まった頃はインクルーシブ保育が始まった頃で、学ばなければという気持ちで参加していた。しかし現状は保育士不足もありなかなか派遣できないと思う。他の園の状況や取組を聞くと学ぶことも多いので、行政からも山鹿市全体で取組んでいきましょうとアピールすると少し考え方が変わるかもしれない。

〇委員（療育関係代表）

　コーディネーター会議に参加して気づいたことが、会議の延長線にある公開保育が法人園には負担だったのではないか。そのため、公開保育を公立園にしたことで参加者も増えたと思う。しかし、現場の先生から他園の取組を知りたいという声はあるので、公開保育で実際に見たり研修会で取組みを共有できるのはいい機会だと思う。参加には園や上司の考えもあるので行政から声掛けをお願いしたい。

〇議長（会長）

　今はオンラインや録画を視聴する方法もあるので。誰も取り残さない、まさしくインクルーシブ保育というものをこの山鹿から作っていくため、関係者の更なるご尽力をお願いしたい。

〇委員（男女共同参画関係代表）

　幼稚園が1つというのは実際寂しいと思う。またインクルーシブ保育など現場の先生も勉強する機会を持たなければならないという話を聞いて、なるほどと思った。職員派遣の際に現場でやりくりするのは大変なので、オンラインや現代に即した工夫があれば上手くいくと思う。

〇委員（保育園保護者代表）

　保護者に支援者はあまりいないと思うし、実際自分も両親ぐらいしかいなかった。少しでも負担感なく周りに助けてもらいながら育児が出来ればいいなと感じた。

〇委員（PTA連絡協議会代表）

　自分の子どもが小さい頃を考えると、大変だったがママ友に恵まれたり実家に頼ったり、携帯のSNSで相談や共有できたので子育てができた。長男が小学生の時はまだインクルーシブという言葉もなかったが、同じ特性をもつお母さんたちと共有して子育てができたと思う。

〇議長（会長）

山鹿は独特の雰囲気がありいいところだと思うので、山鹿で仕事をしなくても山鹿に住んで子育てをという方が増えればいいと思う。

〇委員（商工関係団体代表）

　自分が子育てした時代はこれほど行政の支援が十分でなく、本当に苦労して子育てした。選ばれる山鹿の中で、子育て支援は非常に重要だと思う。山鹿では子育て環境が、どのように整っているかを若い世代にしっかりPRしていただきたい。

〇議長（会長）

　市長には見せ方も含め街全体の魅力アップをしていただくと、子育て世帯もついてくると思う。市長にも本日の会議の様子を伝えていただきたい。

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

７　その他

〇事務局

　次回の子ども・子育て会議は翌年2月頃に予定。

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

８　閉会

事務局進行による閉会宣言

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

午後３時３０分　閉会